



2019年6月22日～2019年6月28日

2019年7月1日

先週の回顧

ブラジル・レアルは、対円、対米ドルともに下落しました。また、2年国債金利は低下しました。トランプ米大統領がG20大阪サミットで中国に対して追加関税を賦課する可能性を示唆したことで、リスク回避の動きから新興国通貨全般の売りが進み、ブラジル・レアルも売られました。

年金改革については、下院議会での法案承認に必要な賛成票が既に集まっているとの見方が強まっています。また、下院議会での票決が7月中に行われる可能性があるとして示唆され、市場では好感されました。

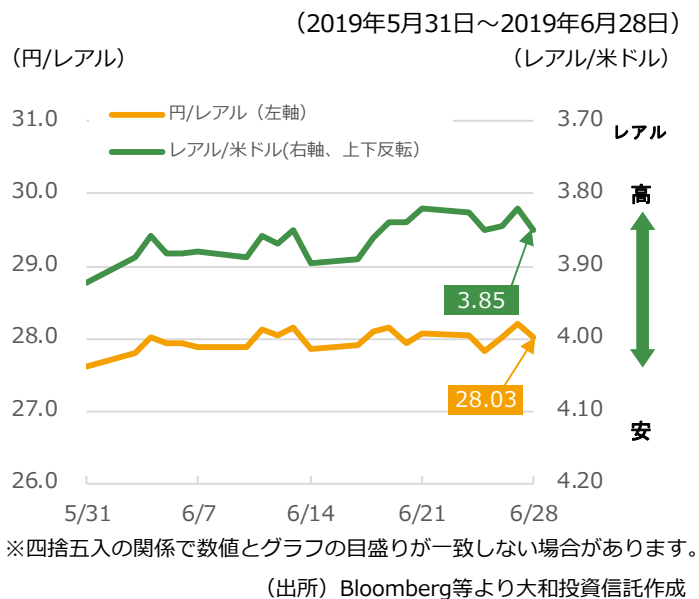
経済指標に関しては、6月のIPCA-15インフレ率が発表され、前年・前月比ともに市場予想を下回る内容となりました。また、国家通貨審議会から2022年のインフレ目標を3.5%（許容範囲±1.5%）とすることが発表されました（2019年は4.25%許容範囲±1.5%）。

今週の見通し

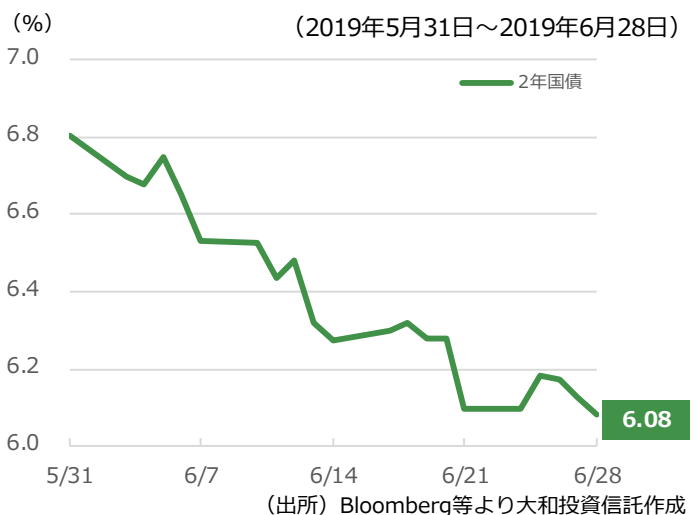
今週は鉱工業生産や各種PMI（購買担当者指数）などの経済指標の発表が予定されています。

先日、ブラジル中央銀行から2019年のGDP（国内総生産）成長率予想が発表され、前回の3月に発表された2.0%から0.8%に大幅に引き下げられました。また、足元では第2四半期のGDP成長率がマイナスになる可能性についても言及されています。仮に2四半期連続のマイナス成長となればテクニカル・リセッションに陥るため、年金改革の動向のみならず、経済指標についても注視していきたいと思えます。

ブラジル・レアル 為替推移



ブラジル 金利推移



当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和投資信託が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。